

～日本の新規技術協力プロジェクト～

「資源の持続的利用に向けたマグロ類 2 種の産卵生態と初期生活史に関する基礎研究」
合意議事録署名式の開催

1月28日、水産資源庁において、水城大使出席の下、ジョバンニ・ラウリ水産資源庁長官と三澤 JICA パナマ支所長との間で「資源の持続的利用に向けたマグロ類 2 種の産卵生態と初期生活史に関する基礎研究」の合意議事録署名式が行われました。

このプロジェクトは、マグロ類 2 種（太平洋クロマグロ、キハダマグロ）を比較することにより産卵生態や初期生活を明らかにし、資源管理に必要な知見を蓄積、統合することを目的として、近畿大学水産研究所及びアチョチネス研究所が共同で実施するものです。

プロジェクト期間は、2011 年 3 月から 2016 年 3 月の 5 年間であり、予算規模は、約 3.7 億円（450 万ドル）です。



署名式様子



水城大使挨拶

Ing. Giovanni Lauri Carreti, Administrador de ARAP
Sr. Yoshitaka Misawa, Representante Residente de JICA
Ing. Vernon Scholey, Director del Laboratorio de Achotines
Damas y Caballeros,
Buenos Días,

本日は、マグロの産卵生態と初期生活に関する技術協力について、JICAと水産資源庁との間で合意署名ができたことを日本政府としても嬉しく思います。

On behalf of the GOJ, I'd like to congratulate on the signing of the agreement of technical cooperation of the reproductive stage and the early life history of the tuna fish between JICA and ARAP.

日本では、古くからマグロを食用としており、さしみやすしなど生食で食べているほか、缶詰での消費も非常に多い状況です。一方、パナマ国においても年間3万トンを超える冷凍・生鮮マグロを輸出しており、貴重な外貨収入源となっていると伺っております。

In Japan the tuna has been consumed as food from ancient times, not only as sushi or sashimi, but rather been sold as canned product. Panama exports annually more than 30 thousand tons of frozen and fresh tuna, being an important source of foreign currency earnings.

しかしながら、近年、こうしたマグロが、減少しているものの、その基礎となるマグロの生態については未解明な点が多くあります。

Although such tunas are decreasing in number in recent years, the mode of their life are yet-to-be-known as a mystery.

本プロジェクトは、マグロの資源管理という最先端の課題に、約4.5百万ドルの無償による技術協力で、5ヶ年かけて取り組むという画期的なプロジェクトであります。小さな一歩ながらも極めて重要な夢のあるプロジェクトと思っております。

This is an epoch-making project which tackles cutting-edge subject of the resource control of tuna over five years under the grant aid of about 4,500,000 US dollars.

I think this project may be only one small step, but a very important dream-inspiring one.

日本でクロマグロの完全養殖に初めて成功した研究機関である近畿大学水産研究所と、中米で唯一マグロ類の研究機関であるアチョチネス研究所の共同研究の成功を祈念しまして、私の挨拶とさせていただきます。

Finally, I sincerely hope for a success of the joint research between the Fishing Laboratory of Kinki University, which is the first research institution in Japan to succeed in full culture of a tuna, and the Achotines アチョチネス Laboratory in Panama ,the only one institution which studies tuna in Central America.